2023年1月11日　電波新聞

電　波　新　聞　（第三種郵便物認可）

マス商事

本社を新横浜駅前に移転

テクニカルセンターをオープン　展示スペース2倍に

製造措置社商社・マス商事は、本社をJR新横浜駅前に移転するとともに、これまで本社に設けているショールームを一新し、展示スペースを2倍に拡大して「テクニカルセンター」としてオープンした。

柳　技術部部長

同社はヤマハ発動機製品はじめマウンター、基板検査装置、リフロー、搬送装置、ロボットなどSMT（表面実装）工程に関わる製造装置を幅広く扱っている。

同社が位置する新横浜は、グローバルな数多くのハイテク企業が拠点を構えている。新本社（横浜市港北区）は、JR新幹線新横浜駅の目の前に位置し、本社機能と営業部門が入っている。

新本社の移転に伴い、従来の本社（同）の1階に設けているショールームを全面改装し、展示スペースも2階まで2倍に拡張。新たにテクニカルセンターとしてオープンした。

同センターオープン前の2022年9月にカスターマーサービス課と、ロボティクス課の統轄組織として「技術部」を発足した。テクニカルセンターを直轄する柳昌典技術部部長は「当社は以前から、エレクトロニクス専門商社として技術力強化を重点戦略に取り組んでいる。国内のみならず、海外各拠点においてもMASSグループとして協力体制を構築しながら、顧客サービスの向上に努めている。SMTのみならず、ロボティクス分野も強化している。今後はカスターマーサービスと、ロボティクスの技術的シナジーを高めながら顧客のニーズに応えたい」と話す。

一新したテクニカルセンターは1階に「バリューライン」として、SMTのモデルラインを設けて、顧客に最新設備による高品質生産を提案する。バリューラインは、ヘッド交換不要で0201～大型部品まで対応。2ビーム2ヘッドクラスで11万5000CPHを実現した、ヤマハ発動機プレミアム高効率マウンターYRM20を中心に、非接触クリーニング装置NAC－250（ナガオカ製作所）、プレミアム印刷機YSP10（ヤマハ発動機）、はんだ印刷検査機VP9000（CKD）、作業者コンベヤーNZC－250EM（ナガオカ製作所）、3Dハイブリッド光学外観検査機YRi－V（ヤマハ発動機）、高性能N2リフロー装置RN152L－82（エイテックテクトロン）で構成し、実際に基板実装のデモが行える。

1階にはこのほか、フライングプローブテスターFA1240（HIOKI）、寸法検査機VT－M121（オムロン）などや、ヤマハ発動機のリニアコンベヤーモジュールLCMR200をベースにした基板組み立てなどの自動化工程を提案する自動組み立て機も展示している。

2階は卓上型水素リークディテクター（ヤマハファインテック）、3－Axis UVレーザーマーカー（キーエンス）、ルーター式基板分割機（サヤカ）、BGA／SMTリワーク機（デンオン）、ファーストロット用基板検査装置（ニューリー土山）、マウンターノズル洗浄機（サワコーポレーション）、ROMライター（東亜エレクトロニクス）、リフローチェッカー（マルコム）、目視検査支援機装置（日立技研）、耐震固定金具（NITTOKU）、卓上型多機能検査装置（マランツエレクトロニクス）、基板外観検査装置（同）などSMT周辺機器を展示している。

2階は定期的にテーマを設定して機器の展示を行う計画で、3月までのテーマは「検査」「測定器」「品質」として、次期は「ロボット」「FA」「自動化支援」の予定。

柳部長は「テクニカルセンターは魅力ある幅広い製品群を紹介し、顧客に実機による安心感と信頼を体感いただき、新しい発見につながる空間として運営、提供していきたい。当社でSMT丸ごとそろう、ワンストップソリューションを提案したい」と運営方針を語っている。

テクニカルセンター「SMTバリューライン」（1階）

2階にはSMT周辺機器を多数展示している